

# ゆうさんの自転車生活

## 2007~2011



小豆島・寒霞渓 2007.3

2022年10月

## ＜はじめに＞

私の自転車、それは、友人の一言「済州島一周サイクリングをした」から始まりました。2006 年のことです。すぐにクロスバイクを買いました。新神戸駅南の「ガレリア2000」でした。

すぐに乗りはじめ、翌年にはその済州島一周サイクリングを実現しました。そのご、計3回もそれをしました。自転車の友人がたくさんできました。ガレリア2000が「まこりん」さんを紹介してくださいました。その月の「まこりん自転車の会」に参加して、林榮太郎さんに出会いました。私の自転車の師匠です。そして、神戸自転車同好会の方々にも出会いました。

この冊子の「ゆうさん」。むかし、南都雄二の「男前のゆうさん」(知らないかな?)が流行りました。私もそれで「ゆうさん」と呼ばれていのたで、ここではゆうさんと名乗っています。

この冊子、私と自転車で遊んでくれた仲間に送ります。

ありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願ひします。

2022年10月 飛田雄一



## ＜目次＞

(頁)

1. 六甲山最高峰から逆瀬川、宝塚、武庫川、そして阪急六甲へ 03
2. 六甲を越えて、蓬莱峡、宝塚、そして武庫川サイクリングロード 05
3. 「小豆島・寒霞渓に登る」の巻 07
4. 神戸自転車同好会への初参加、そして千刈ダムへ 11
5. ポートアイランド・神戸空港から、わが「石井幼稚園」へ 14
6. 芦屋から海岸線を東へ、そして神戸大学をつききる? 20
7. 根雨、米子、鳥取、そして城崎にて 23
8. 琵琶湖、だいたい一周しました 33
9. 大津から三千院、そして「未知との遭遇」 38
10. JRの最高地点（清里・野辺山）から太平洋へのサイクリング 44
11. 大津から、瀬田川、木津川、淀川、神崎川のサイクリング 54
12. 「あーす農場」（兵庫県朝来郡）に行ってきました 56

## (1) 六甲山最高峰から逆瀬川、宝塚、武庫川、そして阪急六甲へ

2007-02-12 22:36:15 | 自転車生活

また、六甲山に登った。4回目だ。



(ダイヤモンドポイント) / (六甲山頂)



鶴甲（神戸市灘区）から六甲山の丁字が辻、ダイヤモンドポイントに。そして最高峰まで行った。高さが931メートルのポールが立っている。ここで、記念写真。石の上にデジカメをおいてセルフタイマーで撮った。手前のものは雪ではなくてカメラを置いた石である。

その後、一路西へ西へと宝塚まで降りた。逆瀬川は、学生時代に在日韓国人の強制送還事件の支援のためによく通ったところだ。福井町にあるその教会を探そうとしたが分からぬ。武庫川沿いの在日朝鮮人の集落「ヨンコバ」あたりにあった「まだん」という喫茶店で、ヨンコバのことなどを聞いてみたがよく分からぬとのこと。

当時の工事中の道路が、いまはメインの道路になっている。当時の農道のような道はどこにあるのか分からなかった。次回は地図をもってもう一度行ってみよう。

逆瀬川から武庫川を下ることにした。大阪・神戸のサイクリング地図によると、西宮から自転車専用道路を北上すると仁川の手前で一般道に出るように指示されている。逆瀬川から南下するにあたってどこかで自転車専用道がされているのではと考えたが、とりあえず自転車専用道を南下することにした。その専用道は、うれしいことに一部の未舗装部分をのぞいて、きれいな自転車専用道が西宮まで続いていた。

海の近くまで行き、臨港線を神戸に向かうことにする。芦屋まで来て、昨年（2006年）、さそってもらった、芦屋と神戸をまたぐ大橋を渡った。かなり幅のある歩道があってそこを快適に自転車で走ることができるのである。

そして職場の阪急六甲までもどった。約45キロ。

その後、もちろん、自宅の鶴甲まで自転車で帰った。当初、それなりに大変だった阪急六甲から鶴甲までの標高差100M強、2キロは、慣れてくるとどういうことはない。最ローギアでそろそろと登るのである。はい。



「登り」がそれなりに楽しいが、昨年、再度公園に登ったとき、私を追い抜いて登っていき、更に公

園から下っていったおじさんがいた。そのおじさんは、私がやっと公園でくつろいでいる時にまた登ってきた。私の初めての山登りのときだったので、私は彼を尊敬のまなざしでみつめながら、いろいろと話をした。彼は、登りばかりやると平地が乗れなくなる、と言っていたが、そんなことがあるのだろうか。

私の自転車は、ガンガン派ではなく、旅行派だと思う。今まで歩いたところ、子どもの時に育ったところ、かつて旅行したところなどなどを、自転車でウロウロしたいのである。

こんど京都で用事のときには、輪行をして木津川あたりから嵐山経由で出張先の関西セミナーハウスに行こうと考えている。また、近々、小豆島に出張がある。そのときは、また輪行して、島を一周しそうと思う。小豆島のアップダウンもかなりのものようだが、六甲山に登ることができればまあなんとかなるのではないかと思う。海岸沿いを一周するだけなら楽勝かも。楽しみだ。



(武庫川サイクリングロードの菜の花)

では、このへんで。 2月12日（2007年）、飛田でした。

（ブログに写真を複数入れようとしたら、最後の1枚だけになってしまふ。理由が良く分からぬが、時間がないのでまた。2月13日 その後、またトライ。3枚の写真が入った。でもよくわからない。4月3日現在、写真の入れ方は大体分かった。）

## (2) 六甲を越えて、蓬莱峡、宝塚、そして武庫川サイクリングロード

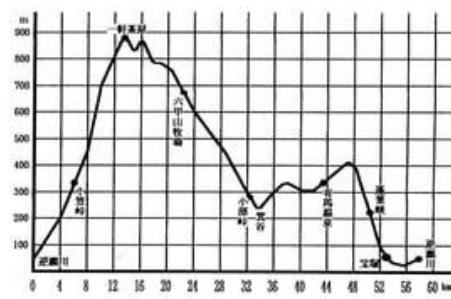
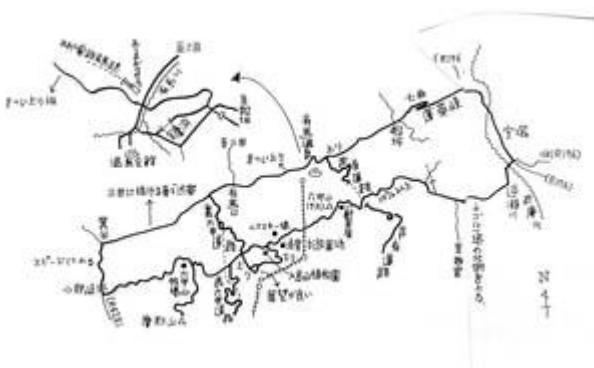
2007-02-15 20:00:32 | 自転車生活

私は木曜と日曜が休みになっている。予定がなかなかたたないが、時間ができたら品行方正に、三宮などにでかけずに山に自転車ででかけている。きょうもそうだ。六甲山だ。



きょうのコース、それは三島嗣治『関西エリア・自転車コースガイド』（1992年7月、アテネ書房、1500円）からヒントを得た。この本をずっと探していたが出版社の倒産？で入手できずにいた。先日出張で名古屋にいったときに書店で見つけて喜んで購入した。その175頁に「関西屈指のビッグクライミングルート・六甲山を周遊」として紹介されていた。コースは、逆瀬川、一軒茶屋、六甲山牧場、小部峠、箕谷、有馬温泉、蓬莱峡、宝塚、逆瀬川（約58キロ）だ。

いまや幻の本なので、以下にコース図と標高図を貼っておく。（サイズのおおきのものも貼った。大きさの指定の仕方がよく分からないので、そのままにしておきます。）



自宅の鶴甲から例によって丁字ヶ辻まで登った。6キロ、1時間のペースが決まってきた。がんばればもう少し速く登れるかもしれないが、無理はよくない。このペースなら休まずに登れる。

丁字ヶ辻からすぐに右折せずにそのまま別荘地域をうろうろした。いろんな建物があるものだ。もどる途中、六甲山ホテル裏にでる道かと思って左折したら、私のロードバイクではきつそうな道になったので引き返した。マウンテンバイクも面白いかな、と思ってしまった。こらあかん・・・。

丁字ヶ辻までもどって記念碑台まで進む。自然センターは月末まで休館だった。

そこから今日は北六甲ドライブウェイから降りた。有馬街道にてそこから有馬温泉に。この有馬街道は道が狭いのに車が多く怖かった。

有馬で温泉に入ろうかと思ったが、先が長いのであきらめた。そのかわり有馬温泉をうろうろとした。神戸電鉄の駅前でカレーを食べた。結構旨かった。

●

きょうの目的は蓬萊渓経由で宝塚だ。この道は車も少なく快適だった。



この崖の崩れ具合をみていると、そのうち？六甲山は北側から崩れてなくなってしまいますのではないかと心配になってしまふ。

生瀬から宝塚へは武庫川右岸の車の少ない道をすすむ。宝塚では、前回のリベンジで「福井町」（申京焕支援活動の拠点・福井教会がある）を探した。福井町は発見？したが、福井教会は分からなかった。福井の公園で遊んでいる親子に尋ねても分からぬといふので仕方がない。

武庫川を快適にくだって海岸近くまで。神戸へは、なれている臨港線を走ったが、同じ道では能がないので43号線の北側の道を神戸に、結構長く比較的車の少ない道が阪神御影まで続いていた。

54キロ。きょうも走ってしまった。自転車もごくろうさんでした。

### (3) 「小豆島・寒霞渓に登る」の巻

2007-03-06 00:04:44 | 自転車生活

しばらくお休みしていたブログです。

小豆島にある余島 YMCA で会議があつて参加しました。私が会長をしているキリスト教施設長会という会の総会です。ここは私が子どもの時毎年参加していたキャンプのあった思い出の場所でもあります。3日間の会議に自転車をもつて出かけました。小豆島はサイクリングのメッカでもあります。1周すると100キロほどのとてもいいコースだと評判です。

新神戸駅から新幹線輪行で岡山駅まで。2度目の輪行でだいぶ慣れてきた。予定の列車まで10分ほどしかなかったが間に合った。3人掛けの席の一番後ろの部分が運良く空いていた。そこに自転車をおく。本当に具合がいい。

岡山駅で自転車を組み立てて、小豆島行きのフェリーができる新岡山港へ。地図でみると南東の方向だ。まず東進して後楽園に。そして横の河原に降りると、なんと全長11キロの歩行者道路がある。よく分からぬが、案内板をみると一旦北上した後、南下しているようだ。



時間に余裕があったので、行ってみることにした。この道は快適そのもので、散歩している人がチラホラだけ。自転車にすれ違わないので不安になり訪ねてみたら、自転車OKとの。どんどん進むと、港に近づいているのかまた不安になった。散歩中のおじいさんに聞いてみると、やはりOK。南下している川は、本流の水害の時の方水路として作られたもので海に向かっているという。歩行者専用道路が終っても堤防上にいい道が海まで続いてきた。そして新岡山港に無事到着、フェリーで小豆島に渡った。自転車代は200円だった。

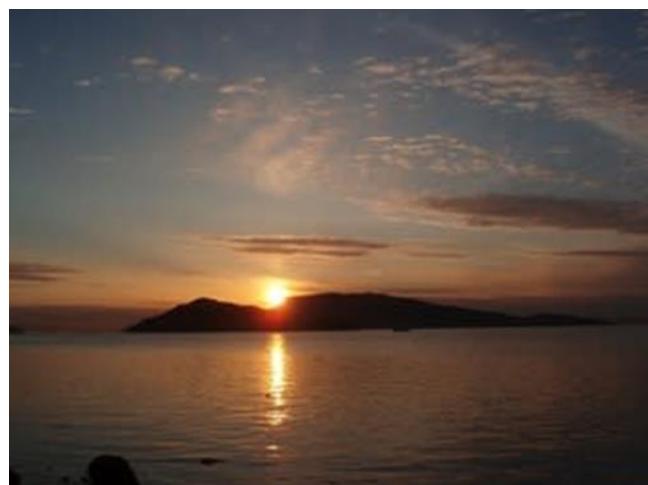
1時間10分で小豆島大庄港につく。あたりを自転車で散歩をしてから、集合場所の余島に渡る船着場・銀波浦にいく。自転車は会議終了後に1泊する旅館・入舟に預けた。

その後、3日間は、まじめに会議をしたのである。途中、フィールドワークがあつて、「24の瞳」映画村や寒霞渓に車で案内してもらった。のちの自転車旅行のための予習には好都合だった。

さて会議が終ってから1日目のツーリングが始まる。天気は快晴で申し分ない。

余島の対岸・銀波浦を出発する。まずは東に向かってと出発したが間違った。だんだんと坂道になってくるのである。どうも寒霞渓に上り始めているのである。地図で確認すると農村歌舞伎の舞台のある方面に向かっている。まあいいやとさらに登る。川沿いの道は車も来ないしルンルン気分だ。かなりの坂を登って、ふたつの農村歌舞伎の舞台を見学した。もちろん公演はないが、いい雰囲気のところだ。またこのあたりは有名な段々畠「千枚田」のあることころ。実りの季節であればもっと素敵だと思うが、なかなかの絶景であった。

さらにアップにするとおばあさんが歩いているのが見える。



千枚田から中山をぬけて三都（さんと）半島に向かった。この半島を時計の反対方向から1周することにした。景色がとてもいい。余島もよく見える。海の水もきれい。名前は分からぬが多くの瀬戸内の島々と四国、淡路もみえる（みえているようだ）。

事前にインターネット <http://www.geocities.jp/je3mrc/051009syouzu-1.htm> で調べたところでは、この半島は完全1周ではなくて、東側の一部を重複するようなコースになっている。私もそのようにしなければならないのかな、と思っていたがそのまま一周することができた。吉野から神（こう）の浦までは、道が急で狭いが自転車にはなんの問題もない。途中に「巡礼道」という表示があった。3月4日より鹿の猟が始まるので注意という表示もあった。

半島の先端は地蔵崎灯台だ。灯台で一服したのち、半島東側の道を北上した。国道436号にもどるとそこがオリーブ園。小豆島名物のオリーブは、いたるところに？元祖オリーブ・・・というのがあった。これもそのひとつだ（失礼しました）。アイスクリームはおいしかった。

さらに東進して草壁港から寒霞渓方面に少し登ってみる。本通りでない川沿いの道は、風情があってよかった。また草壁港にもどり、そして国道436を西進して出発地の銀波浦にもどる。宿に戻ろうかと思ったがまだ時間がありそうだ。銀波浦のあるところ、すなわち前島を1周することにした。前島は小豆島本島の西にある島で周囲10キロほど。一般的には本島と前島をあわせて小豆島という。このふ

たつの島の間の海峡は世界で最も狭い海峡で、ギネスブックにも掲載されているという。

前島は時計回りに回った。西海岸から見た夕陽は最高だった。

この写真よりもっと綺麗だった。北西部の小瀬隧道への登りは少しきつかったが無事に一周して宿にもどった。夕食をすませて近くの大きな温泉に行った。帰りに立ち寄った中華料理屋の餃子は、高くてまずかった。

2日目。いよいよ小豆島一周だ。銀波浦を出発して島を時計回りに進む。小江、目島、尾形崎と走る。車も少なく快適だ。前日のような快晴でないのは仕方がない。海の水の美しさにはやはり太陽の光が必要だ。小海（おみ）でサイクリングの男性2人、女性1人の大学生グループに出会った。26日間で四国一周をしてきたという。テントも自転車に積んでおり、神戸から来たと言う。嬉しくなって買っていたみかんをプレゼントした。ありがとうございます、と言ってくれた。

さらに島の北海岸を東進して大部（おおべ）港につく。ここから姫路日生（ひなせ）港にフェリーがでている。大学生3人組はここからフェリーに乗って、その日のうちに自転車で神戸まで帰るという。

私は少々迷ったが寒霞渓に登ることにした。標高差600メートル、8キロ。六甲山ぐらいかと思って、思い切ってチャレンジすることにした。大部から寒霞渓への道はつづらおりの道で、自転車にはとてもいい。ゆっくりと登った。すでに購入していた小豆島の絵地図を見ていたら、ほんとうにくねくねとした道だ。オーソドックスな銚子渓コースあるいは南からの直線的なコースよりも自転車には向いていると考えていたが、そのとおりだった。

山頂の記念碑の前で、オートバイで登ってきていた若者に写真をとってもらった。その若者は、寒霞渓に自転車で登ってくるおじさんに呆れていた。



下りのコースは、途中まで南方面に下るブルーライン。快適に下って太陽の丘の手前で左折、福田港に向かった。このコースが最高であった。福田港近くまで一台の自動車にも出会わなかった。本当にお勧めである。

福田港からは姫路港へのフェリーがでているが、新幹線のディスカウントチケットをすでに買っているので?、さらに島めぐりを続けることにする。

途中で、すてきは石の彫刻があった。



作者は、兵庫の人だった。

当浜、岩ヶ谷、南風台と南下する。そこから道はそれなりの登りとなり、大角鼻灯台への分岐点にくる。この登りは、寒霞渓の登りのような心の準備がなかったので少々こたえた。本来の一周コースではその灯台に行かなければならぬが、時間がないのでパス。さらに進んだ安田からは南下すれば二十四の瞳映画村だが、ここも会議中のフィールドワークで訪問したのでパス。国道436を西進する。

前日に行った草壁港、オリーブ園、池田港を通過して、最終の目的地・土庄港に無事到着した。これまた新岡山港行のフェリー出発の直前にセーフ。フェリーの船内で充実したサイクリングの余韻を楽しんだ。

岡山駅までは自転車で、そこから新神戸駅までは新幹線ですぐ。大満足のツーリングだった。繰り返しになるが寒霞渓に自転車で登るなら、大部港コースか福田港コースが一番です。以上、小豆島ツーリングの報告でした。

#### (4) 神戸自転車同好会への初参加、そして千刈ダムへ

2007-04-02 22:07:42 | 自転車生活



(渦巻展望台から摩耶山方面) / (丁字ヶ辻)

4月1日（日、2007年）、初めて神戸自転車同好会の例会に参加させてもらった。A太郎さんや83歳のkataさんら「自転車生活<8>」（この冊子では省略）で呑吐（どんと）ダムにご一緒してくださったメンバーもいる。初参加の私をみなさんが快く歓迎してくださった。ありがとうございました。

集合は午前9時半、神戸電鉄岡場駅。鶴甲の自宅からどうして行こうかと考えた。

- 1) 新開地まで自行で、あと輪行で神戸電鉄岡場駅。
- 2) JR六甲道まで自行してあとJRで道場あたりまで輪行。

どちらもそれなりに時間がかかりそうなので六甲山越の自行にした。

7時半に出発。表六甲から丁字ヶ辻へ。そして裏六甲ドライブウェイを下って有馬街道を通って岡場駅に9時10分ごろ無事到着。有馬街道は道が狭く車が多いので怖かった。

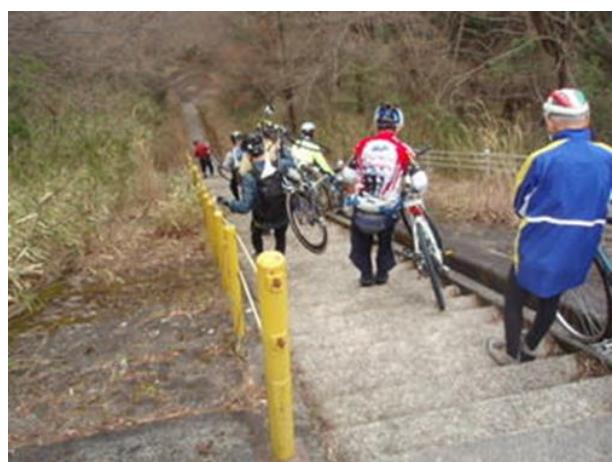
リーダーはikeさんで、目的地は千刈ダム、メンバーは12名。駅前のコンビニで弁当を買って出発した。ダムに直線的に向かわずにまずは有野台へ。そこからikeさんの事前調査によるおもしろい道を進んだ。中国自動車道のインターを回り込んだり、有野川沿いに走ったり、神戸市立セミナーハウスへの急坂を登ったり、またそれなりの階段を自転車について下ったりの道だった。



(リーダーのikeさんら) / (休憩した公園を散歩中のいぬ)

おもしろいコースを地図的に説明できないのが残念だが、私自身がほとんどわかっていないのである。

申し訳ない。



(セミナーハウスへの急坂をこぐ?)／(階段を下りる)

そして(そうしたので) 適当な昼食時間に千刈ダムに到着した。私は千刈ダムの周りをサイクリングするのだとと思っていたらそうではなかった。なんと、ダムを下から眺めるところまでいったのである。前日の雨の影響か水量も豊富で素晴らしい眺めだった。



(千刈ダム)／(川辺で昼ごはん)

弁当を食べ終わったころ雨がパラパラしてきたので出かけることにした。帰りのコースは、川沿いのサイクリングコースを走ったり、スポーツ公園に立ち寄ったりしながら岡場駅に無事到着した。時間が3時前だったと思う。

帰路どうするか迷っていたとき、宝塚から参加のひとっちゃんが国道176の旧道を通って帰られるとのこと。私は連れて行っていただくことにした。この道が最高だった。細い旧道のダウンヒルが2, 3ヶ所。また宝塚市内も実に道をよくご存知で、へえ、というような道を案内してくださった。千刈ではあまり咲いていなかった桜が満開のところもあった。

宝塚までもどったらもう輪行はしない。武庫川沿いに下り、臨港線を西へ西へとまっしぐら。の、つもりだったが、芦屋の香櫞園浜あたりをぶらぶらした。かなり徹底的に海岸線を走ったが、その延長線上に浜芦屋の新興住宅地も一周した。予想以上に大規模な埋立地にびっくりした。芦屋らしく立派な一戸建が並んでおり、一部にはすでにお住まいの方もあった。立入禁止の道路もだいぶ舗装されておりサイクリングにはとてもいい。

寄り道のしすぎて最後は雨に降られたが、107キロ、大満足の一日であった。みなさん、ありがとうございました。

## (5) ポートアイランド・神戸空港から、わが「石井幼稚園」へ

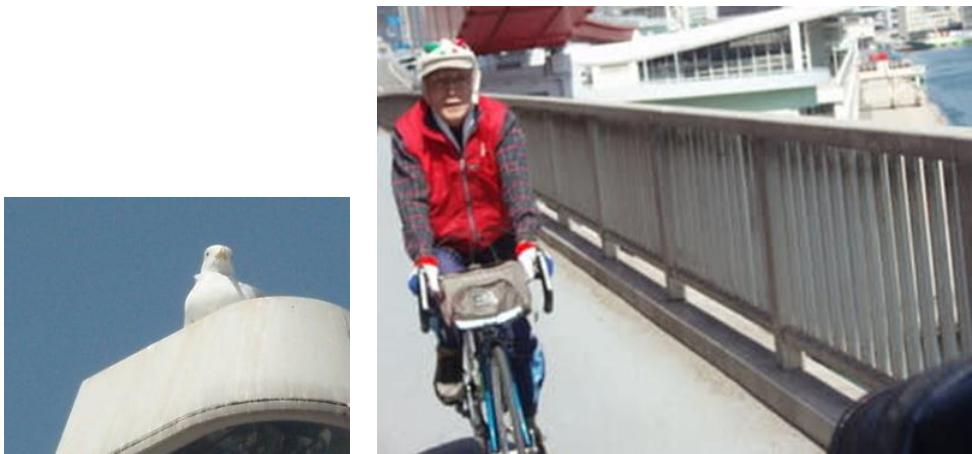
2007-04-06 19:47:16 | 自転車生活



(三宮花時計、いよいよ出発です。左からkataさん、tazuさん、A太郎さんと私)

このところひんぱんなサイクリング。今回は、三宮花時計前午前10時15分集合。楽々の自行（サイクリングの専門用語で電車、自動車を使わず自転車でいくこと。私は最近知りました）で参加した。さそってくださったのはA太郎さん。メンバーは、83歳のkataさんとtazuさんと私の4名だ。すでにこれまでの「自転車生活」に登場する先輩たちである。天気は快晴、雨の心配もまったくなし。これ以上のサイクリング日和はない。

まずはポートアイランドに向かう。花時計より南下し、神戸税関前から橋を渡る。快適な歩行者・自転車専用道で、景色もいい。ポートアイから更に神戸空港島に渡る。その橋は、更に広い歩行者・自転車専用道があり気持ちがいい。kataさんの発見したのは、外灯ごとにお休みしているユリカモメだ。



(お休み中の外灯上のユリカモメ) / (さっそうと橋を渡るあこがれのkitaさん。走りながらパチリ。私のリックサックも映っている。)

風もなく車も飛行機も（？）少なくて、スイスイと空港に着いた。ここまで約30分。空港が初めての

tazu さんのために？自転車を置いて見学に行く。私は飛行機のために一度、サイクリングで一度、神戸空港に来たことがある。市民の未来に大きな負債を負わせる神戸空港には反対であるが、どんな空港かは知らないくては？、と。

夙ごはんをどこで食べるか？ 二つの選択肢があった。ひとつは和田岬の神戸市場の安くて美味しい定食屋、もうひとつは新しくポートアイにできた大学の学生食堂である。いずれもリーダーA太郎さんのおすすめである。協議の末、というより、お腹もすいていい時間になったので後者・学生食堂に決定した。



（この内容で620円、上等だ。）／（レシートです）



ポートアイにこの4月から3つの大学ができたが、今回は神戸学院大学の学生食堂を訪問した。教職員用の少し高級な？食堂は満席だったので、隣の学生用食堂に入ったのである。教職員用食堂もランチが600円とあった。次回はそれを食べたい。

なにしろこの食堂は、開店が4月1日、我々が訪問したのは開店4日目で、サービスも満点。学生でなくてもウエルカムウエルカム、またきてね、という感じであった。ただし、教職員用は日曜休み、学生用は土・日が休みである。大のおすすめだが、ご注意を。

更に別棟にある喫茶室でコーヒー、180円だった。天気がいいので海と山を見ながらいただいた。



（桜のトンネル、飛田の今年の秀作？）／（桜のトンネルで記念写真）

次なる訪問先は、摩耶ケーブル下駅付近の「桜のトンネル」である。私は三宮への自行の途中に立ち寄っていた。本当に満開の見ごろなのだ。最後の急坂を登りきったら、桜のトンネルが眼前にあらわれた。私以外の3名はここが初めてとのことで、大感激。記念写真もたくさん撮った。

そして、最終目的地の石井ダムに向かった。異人館街の北野町を抜け、山本通を通り、水の博物館を少しだけ見学し、西進する。ほどなく、湊中学校・湊山小学校に到着する。この学校は、飛田の出身校で懐かしい。

そして、都由乃町（つゆのちょう）の石井幼稚園に。ここも飛田の卒園園で、かつ、生誕の地。母がこの園の園長をしていて園内に私たち家族は住んでいたのである。涙がでそうに懐かしい。



（石井幼稚園前で）／（カラソカラソ、チリンチリンの滝）

石井ダムは、幼稚園の北にある烏原貯水池の更に北に防災用ダムとして昨年完成したのである。これも懐かしい烏原貯水池に行く道を間違った。様子が当たり前だが、かわっているのである。

間違ったおかげで大発見ひとつ。私は石井幼稚園に小学校4年まで住んでいたが、ある年、カラソカラ

ン、チリンチリンの滝壺で中学生?が死亡した。決して近づかないようにと厳禁されていたところだが、その場所が（もちろん私は禁を犯して行ったことがある）分からなかったである。道を尋ねた地元の人がその滝のことを教えてくれたのである。私が当時、どうを採ったりして遊んでいた場所のすぐ奥、鳥原ダムの東側の沢だったようだ。

鳥原貯水池は、kataさんの因縁の地でもある。1923年に完成したダムのために鳥原村は水没し移転を余儀なくされた。kataさん一家はその村に住んでいたのである。そのことを記念して、石臼が貯水池の石垣に残されている。kataさんのおじいさんは、「×番目から△番目まではうちの臼だ」と言っていたという。



（鳥原貯水池の石垣の石臼）／（鳥原貯水池の掲示板）

私は幼少時、おそらく週に2、3度は来ていた鳥原貯水池広場の亀石（独特の抑揚く更に神戸弁ぽく？）で「かめいし」と発声）も現存していた。当時、欠けていた部分も復元されて、完璧な姿であった。



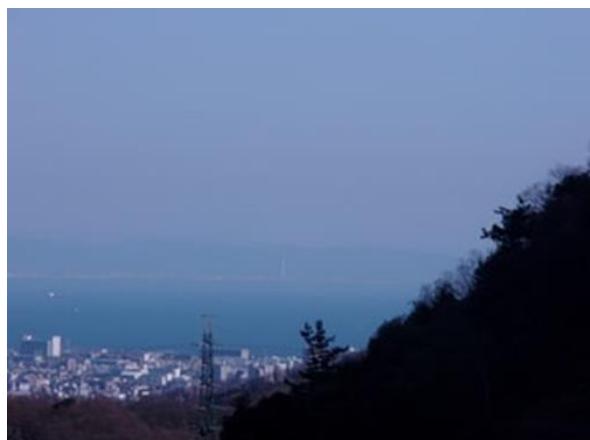
（私をなつかしそうに迎えてくれた亀石、奥のアンテナは菊水山）／（石井ダムの威容）

鳥原貯水池の名前の由来についての興味深い話をkataさんから伺った。法然上人?の弟子が京都で処刑されたとき、ある人がその首をここに運んできて弔った。それでは具合が悪いということで、鳥（力

ラス) が運んできたことにしたのだという。そしてここの地名が鳥原になったのだと言う。kata さんがおじいさんから聞いた話だという。

貯水池から更に奥に進むと下水処理場。鈴蘭台が開発されてからできたものだ。このあたりは私の幼少のころよく飯盒炊さんをしたところだ。更に進むと石井ダムが目の前にガーンと現れる。このダムによって神戸電鉄の線路が湖底に沈むので付け替え工事が長い間行われていた。

このダムの左側に 300 段の階段がある。この階段を、自転車を担いで登るのである。さあ大変だ。が、なんと、この階段を kata さんはすでに朝、自転車を担いで下りて三宮まで来られたのである。それだけではない。今も鳥原貯水池横にある旧鳥原村の墓地に時々この階段を、自転車を担いで降り／登りして時々通っておられるのである。83 歳の kata さんは怪物か・・・。



(300 段の階段を、自転車を担いであえぎあえぎ登る) ／ (石井ダムからみる閑空の陸地側のビル。写真で見えるかな?)

私はこんな長い階段を、自転車を担いで登るのは初めてだ。でも少しずつ慣れて?、なんとかたどり着いた。前回は来たのは夕方で天気も悪かったが今回は快晴。閑空のビルも見えるほどだ。



(散歩に来ていた犬とたわむれる kata さん) ／ (平野の祇園神社)

石井ダムで記念写真などして、最後の目的地・リーダーA太郎さんのご自宅に向う。A太郎さんは知る人ぞ知るチーズケーキづくりの名人。それが楽しみで石井ダムを登ってきたのである。そこで美味しいケーキをいただきながらしばし歓談。残念なことにチーズケーキはすぐに食べてしまったので、写真はない。

5時過ぎにそれぞれの家路につくことにした。もちろん？自行である。kataさんが一番近い。tazuさんは1時間ぐらいかけて西神方面へ。私は車が多くて怖い有馬街道を下ることにした。500Mのトンネルにはつらいものがあるが、なんとかクリア。しばらく行くと有馬街道の旧道があり、そこは快適に走ることができた。

やがて平野の祇園神社につく。私の生まれ育った石井幼稚園からは歩いて20分くらいか。この神社の夏祭りは子どものころの最大のイベントだった。学校からは午後9時に先生が、帰る時間だと見回りに来られていた。ときには先生と鬼ごっこも・・・。

今は、旧道の一部に夜店ができるだけだそうだが、昔は、平野交差点から、今の旧道のかなり上の方まで夜店がでていたのである。実は、「祇園祭（ぎおんさん、と発音する。念のため）」とはこの平野の祭だと思っていた。京都の祇園祭のことを聞き、「京都にもあるの」と言って笑われたことがある。

懐かしくなってそのあたりをウロウロした。平野町の東に五宮町に五宮（ごのみや）神社に行った。神戸は三宮神社が有名だが？、一宮神社から八宮神社まである。五宮神社は私の中学校の校区内にあるのに全く記憶がない。初めてかもしれない。



（五宮神社にあった神戸の神社の一覧表）

そのあとついでに、石井幼稚園のあと引越しをして中学2年ごろまで生活した再度筋（ふたたびすじ）にも立ち寄った。家は建て直されていたが露地はほぼそのまま残っていた。自転車だからどんな細い路地でも入れるのがうれしい。

なつかしうれしのこの日のサイクリングであった。鶴甲まで帰って70キロ。それなりによく走っている。A太郎さん、kataさん、tazuさん、ありがとうございました。

## (6) 芦屋から海岸線をサイクリング、そして、神戸大学をつききる

2007-06-23 18:15:10 | 自転車生活

6月某日（2007年）[神戸市民自転車同好会](#)の例会に参加した。3回目だ。集合はJR神戸駅、私は鶴甲の自宅から自走した。神戸駅スタートの例会なのでどんな道を走るのかを楽しみに参加した。メンバーは13名。リーダーは名倉さんだ。

目的地は芦屋とのこと。リーダーは徹底した海沿いの道を案内してくれた。ハーバーランド、中突堤、水上警察と進み、三宮あたりはそれなりに走り易い道を選んでくれて、HAT神戸へ。そして更に、1キロ?の波頭の直線道路を東進して神戸製鋼の[灘浜サイエンススクエア](#)に到着。見学とトイレだ。ジャットコースターのような椅子にのってみる映画は、自転車以上にハードだった。

スクエアから運河沿いの道を東進し、さらに、灘の酒蔵通を利き酒もせずに東進した。リーダーの徹底した海沿いコース選びは、酒蔵から芦屋川にいたる道でも十分に発揮された。

芦屋川を南進し、芦屋浜をぐるっと回る。潮風が心地よい。ちょうどいい時間となったのでコンビニで弁当を買い、ヨット遊びを見ながら公園で昼食。サイクリングは、お腹が減るものだ。もちろんノドも乾く。



（芦屋浜で記念写真）／（この木の枝に、鳥？がいる）

帰路は芦屋川を北上してから山手幹線を西進する。山手幹線は最近芦屋以西が完成したようだ。できたてのアスファルトは気持ちがいい。石屋川で、A太郎さんとyoshiさんと私は同好会の他のメンバーと分かれることになった。A太郎さんとyoshiさんは、なんと、六甲山越えでそれぞれの自宅に帰るという。他のメンバーはあきれていた。

私は、鶴甲一阪急六甲を通勤路にしている。神戸大学内の素敵な道のことを吹聴していた。その道を案内して欲しいとのこと。そして、3人は石屋川、阪急六甲から神戸大学に向った。最初の急坂は六甲登

山口から東に2つめの信号を北上したところ。神戸大学の工学部と百周年記念館の間にでる道だが、自転車が後ろに回転しそうな（だいぶオーバーです）ところがあるのだ。

以前、[写真生活<4>](#)（この冊子では省略）で紹介した「木のイノシシ」のあるところも通る。数日前この道を歩いていて木の鳥も発見した。こここの住人の「遊び心」は素晴らしい。



（これだ！！！）／（さらに、リスもいる）

一旦、大学をでて市バス32系統を北上して再び神戸大学正門から入る。国際協力研究科と講堂の間を進み、快適な木の生い茂る坂を登って兼松記念館前に。そこを左から回り込んで東に抜ける。次に50メートルほどの急坂を登ると六甲台グランドだ。最近はラクロス部が熱心なようだ。

グランドを回り込んで剣道場のところから再び32系統のバス道を進んで（鶴甲団地の中は適当に北上すればOK）六甲ケーブル下駅にでるのである。

私の自宅はすぐそこ。バイバイしてもいいのだが、先輩たちの案内人として六甲山丁字ヶ辻までお付き合いすることにした。

ケーブル下駅からトンネル入口までは旧道をひたすら登る。飛田方式では、時速4～5キロという、これ以上ゆっくりこぐと自転車がこけてしまうというスピードで登るのだが、先輩たちは私よりだいぶ速い。

トンネルを抜けると雪国、ではないが、我々はそこに入らずに更に山頂をめざす。六甲山の登り道は、うねうねとしている部分の方が、自転車にはいい。六甲ケーブル下駅までの市バス16番系統の道のように、直線道路の坂の方がだいぶしんどい。



(六甲山の坂を登るyoshiさんと私)／(六甲山・鉢巻展望台のウグイス?)

鉢巻展望台では、元気のいい3人娘に「超スゴイ、自転車でここまで登ってきたの！！」と感心されて喜ぶ。うちの1人は、ママチャリで大阪と明石に行ったことがあるという。すごい。市民同好会のダンツツに若いメンバーになるかもしれない。「この自転車、超軽い！」と持ち上げてくれて記念写真もしたが、それはおじさん3人だけのものとする。

展望台でウグイスがよく鳴いていた。15年ほどまえに神戸学生青年センターのスタッフは、ときどき昼食時に弁当をもって登り（自転車ではありません、車）、ここでランチタイムをした。

そして、この展望台でよくウグイスの声を聞いた。登る度に鳴き方が上手になってくるのである。最初は、ホーホケだか、だんだんと、ホーホケキヨになるのである。デジカメの最大の光学ズーム（15倍？）で、かつ連写にして闇雲にたくさん写真をとったら映っていた。（A太郎さんによるとウグイスが確かに鳴いていたが、この写真はコゲラではないかとのこと。そのようです。）

鉢巻展望台から丁字ヶ辻までが最後の急坂。でも、神戸大学付近の2つの急坂よりましか？？

3人は無事に丁字ヶ辻に到着。私は同じ道を引き返した。お二人の先輩は元気に森林植物園経由でご自宅に帰られた。後半には少しやりすぎたサイクリングでした。45キロ。

## (7) 根雨、米子、鳥取、そして城崎にて

2007-11-12 22:42:50 | 自転車生活

### ●上石見一根雨一米子、下りの快適90キロ

10月25日（2007年）、神戸からJRで岡山、新見経由で上石見駅に着く。地図をみると近くに銀山があるので、かの世界遺産かと思ったがここは鳥取県。別の石見である。



（伯備線普通列車の自転車席？）／（上石見駅、鳥取県にも石見銀山があるのだ）

27、28日に城崎で会議があるので、事前に？上石見にやってきたのである。めざすは「根雨」、亡くなった父の出身地で、私自身の本籍も結婚して移すまでは、「鳥取県日野郡日野町根雨〇〇」だった。小学校2、3年まで時々訪ねていた。

父が自慢していた「特急がとまる根雨」に直行してもよかったです、どうせならと、そのあたりで最も標高の高い上石見駅からスタートしたのである。

以前、自転車雑誌でJRの最も標高の高い小海線野辺山からのサイクリングを紹介してあったが、こんなのもいいなと思っていた。

地図を買って研究した。お薦めはダイソー100円ショップの「分県地図」だ。等高線を工夫しており、200M、500Mの境が一目瞭然だ。JR伯備線で分水嶺を越えると上石見だ。標高は約500M。この分県地図、鳥取県などあるものは買い占めたが、残念ながら兵庫県版は品切れ。売り切ったら必ず増刷するものでもないらしい。（みんなでダイソーにリクエストしよう！！）



(米子から上石見に列車が登って来る。) / (根雨の標識が見えてきた)



(根雨より少し上流の発電所) / (父も通った？根雨小学校)

上石見駅で自転車を組み立てた。あたりを少しウロウロしてから石見川沿い、伯備線沿いにどんどんと下った。生山、黒坂をすげていよいよ根雨だ。役場で本籍地を言うと場所を教えてくれた。飛田という家も3軒あるとのこと。



(小学校の？猫) / (特急も停車する根雨駅)

近くまでいって小学校のころの記憶を呼び覚まそうとするが分からぬ。訪ねた飛田さんは不在で、となりのそばや「そば道場・たらや」で遅い昼ごはんにすることにした。そばうちの安達さんは私とほぼ同じ年代で、ここにずっとお住まいとのこと。そばは本当においしかった。親切に地域の方に電話もしてくださいり、ほぼ父の旧家の場所が分かる。

旧家は幹線道路から根雨の町に入るところで、現在は道路だ。坂の具合をよくみると当時の面影があるような気もする。後日、安達さんはわざわざ電話をくださった。祖父家族は熱心なキリスト者で、祖母は奉仕活動をよくしていたという。父のことも覚えている人がいたとのことだ。

安達さんは、飛田家の墓も案内してくださった（後日の電話で、それは別の飛田家のものだとのこと）。この墓地の管理（おもり）も安達さんがされているとのことだ。



（安達さんの「そば道場」）／（別の飛田家のお墓）



（このあたりに私も遊んだ家があった。今は道路になっている。）／（根雨をすぎて米子に向う。いい天気だ。）

根雨のまちをウロウロしたが、用水を自宅にひいて鯉を飼っているのを見て思い出した。旧家にも用水

が引き込まれており、余った食材をダバーと鯉にやっていたのを覚えているような気がする。（母が「天ぷらでもなんでもぶちまけていた」というのを聞いていたのかな？）

根雨を後にして、石見川沿いを米子に向って走る。車は少ない。しかし伯耆溝口駅あたりまで下ってくると車が増えてくる。で、できるだけ旧道を行くことにした。だんだんと旧道を発見するコツのようなものが分かってくる。古い集落をキヨロキヨロしながら、トラックを気にせずに自転車を走らせるのは気分がいい。

なんとか夕方まだ明るいうちに米子に着いた。ネット予約していたビジネスホテルに行く。それなりの？ホテルだ。翌日は雨の予報なので、また市内を自転車でウロウロする。米子港は、きれいだった。アベックには（この用語がおじさん？）おすすめだ。

夕食は自転車で物色していたホテルの近くのお店に入る。もちろん魚料理だ。ひとりですることは何もない。ビールも飲んで超リラックス（この用語はまあまあ？）

### ●2日目／米子から鳥取へ、それなりの100キロ

朝、天気予報通りの雨。それもけっこう降っている。ホテルで無料の？朝食をとってから、徒歩で米子駅あたりを散策。きょうはJRで、①香住あたりまでいって会議の日の朝に自転車で城崎に向かうか、②明日もまた雨だったら困るのでいっそ城崎まで行ってしまうか、③都会の鳥取市までいって美味しいものでも食べるかなどなど、思いをめぐらしながら米子駅前の場末的な食堂で新聞を読みながら2回目の朝ご飯を食べていた。

10時過ぎ、店をでて先の①②③、どれにしようかなと思っていたら、な、なんと雨がやんでいるではないか。フム、これは自転車で行けるところまで行かねばならない。ホテルにもどり、サイクリング仕様で出発だ。サイクリング仕様といっても、愛用のドイツ・ドイター製のリックサック（28リットル）ひとつ。これは、背中に空間があり、サイクリングには最適だ。そのリックに輪行袋もふくめてすべてをつめる。

米子駅から東へ東へと走る。大山（だいせん）も見えている。父が「富士山は3776メートル、大山は1776メートル」と何回も教えてくれた大山だ。いまも親戚がいる淀江も快調に走った。基本的には国道9号線を走る。しかしサイクリング界の常識では、ひとけた、ふたけたの国道（1～99）をできるだけ走らない、だ。たしかに車が多い。

旧道をさがしてできるだけそこを走る。きょうの私の目標はできるだけ海岸線近くを走る、だ。例の地図での予習どおりJRなわ駅あたりから下市駅あたりまでは少々アップダウンはあったが、海岸沿いのすてきな道であった。また赤崎駅あたりから丸尾、逢束あたりまでもいい道だ。



(米子港の夕日) / (けっこう大きな鳥。目と目があつた??)

9号線の北条バイパスと合流したら、そこを走らずに内陸側にいい旧道が続いている。下北条駅あたりから東郷池の北側を廻り込むべく羽合（ハワイ）町方面に。東条湖近辺は雰囲気のいいサイクリングロードがあり、ときどきその道を走ったが東には伸びていないようだ。

羽合町あたりはまた海岸線を進む。快適だが、距離が長いし、アップダウンもそれなりにある。青谷（あおや）駅と浜村駅の中間地点の八束水に来た。ここからいくつか道を間違った。楽をしようとトンネルを走ってしまったのだ。このブログを参考にしてサイクリングしようとする方のために以下、紹介したい。（といっても実際に走ったコースではない。無責任・・・）

八束水より東のトンネルは手前を内陸側に入ってから浜村駅経由で9号線にもどろう。水尻池あたりには、これまた怖いトンネルが2本ある。自転車を押して歩いても怖いようなトンネルだ。ここは、ひとつめのトンネルの手前に酒津、水尻の掲示のある道を進もう。アップダウンは少々あるかも、またそこにもトンネルが一個あるが（地図をみているだけ）絶対に車もほとんど走っていない快適な道だ（のはずだ）。



(びっくりするぐらいの規模の海辺の墓地) / (名探偵コナンの橋)

さらに進むと「因幡（いなば）の白兎（しろうさぎ）」の白兎（はくと）海水浴場の手前にもトンネルがある。これもきつかったが、回避するのは無理のようだ。

そしてまた少々つらい9号線を走ったのち、溝川あたりから9号線を内陸側にはずれて、湖山湖の北（日本海側）を通って鳥取市内に入る。町が近づくとよけい道に迷うものだ。暗くもなっていたし、「鳥取駅」の表示をみて右折したら「鳥大駅」だった。



（自転車専用道路がけっこうある）／（いなばの白兎がこのあたりで鮫？をだました！！？？）

迷ってしまってまた9号線らしき道を走ったら鳥取市街を行き過ぎた。親切に教えてくださる方がいた。

「鳥取大橋を渡ってニッサンの大きな看板を右に回ると自転車道的な歩道のある道がある。すこし遠回りだがJRの高架を越えて少し戻ると鳥取駅です。」

感謝のことばをのべて大橋を渡りかけたらハプニングが起きた。無灯火自転車の高校生が急に現れたのである。私はとっさの判断で自らこけた。幸い少々怪我しただけで、「ごめんなさい」という高校生に「いいですよ」と言って別れた。

チェーンがはずれていたので懸命にはめようとしたが、なかなかはまらない。これまで何度もチェーンをはずしているが、こんなことは初めてだ。ギヤーのところがまがっているようだ。

やむなく輪行袋に自転車をいれてタクシーで鳥取駅前まで行くことにした。橋の上ではなんなので、明るい店の前まで移動した。そこで再度ダメモトで、今度はギヤーのところをかなりの力で引っ張ってみた。そしたらチェーンが入った。

おそるおそる試乗してみる。ギヤーがスムーズではないが、なんとか走れる。輪行袋をかたづけ、駅まで自転車で行くことにした。駅まで無事に着き、それなりのビジネスホテルをさがしてチェックインする。約100キロの2日目だった。



(鳥取市の飲み屋のトイレのマスコット) ／ (やっとたどりついた芦谷トンネル。)

### ●3日目／そして城崎にて

鳥取から城崎へはJRで輸行。列車の本数も少なく結構時間がかった。

夕方まで研究集会が続く。4時から映画「それでも僕はやっていない」の上映会があった。私はすでに見ているので、バスして自転車でまだ見ぬトンネルを見にいくことにする。

山陰線工事に朝鮮人労働者が関わったことは兵庫朝鮮関係研究会の徐根植さんらの研究で明らかになっている。山陰線は地形の険しいところが多く難工事であったが、その工事の跡を訪ねるフィールドワークを何度か行った。今年（2007年）3月のフィールドワークは、「最後の餘部鉄橋」もひとつのポイントであった。

これまでのフィールドワークで訪問できなかったトンネルがある。それが城崎近くの芦谷トンネルだ。香住から城崎に抜ける道沿いにあるが、その道が大型車侵入禁止の道なのでこれまで行けなかったのである。



(芦谷トンネル、全景。) ／ (志賀直哉ゆかりの「桑の木」の看板。もちろん？木もありました。)

そのトンネルをどうしても見たいと、自転車で城崎から香住方面に山道を登った。城崎大会議堂からし

しばらく登ると志賀直哉ゆかり「桑の木」があった。そういえば小説にあったかなあ??

道はけっこう急で、線路がどこを走っているのか分からぬくらいだ。そこに列車がきた。木々の間に列車が見える。そして、トンネルに消えていった。芦谷トンネルだ。足場の悪い道を下っていくと、トンネルの入口があった。（どっちが入口で、どっちが出口かはわからない?）

写真をとって大満足のはずなのに、出口も見てみたいと思ってしまった。更に自転車で登っていく。バスが通れないはずの道路だが結構いい道だ。車用のトンネルが見えてきた。これが峠でこれを抜けて坂を下ると芦谷トンネルの出口だ、と考えたが、間違いだった。

（トンネルを抜けると道は急に狭くなり、バス通行禁止を納得する）



（城崎温泉から峠までできてしまう。）／（日本海は荒れている。暗くなってくる。心細い。）

最初から地図を見ていれば明らかだったのだが、その出口?あたりに自動車道はない。自転車はドンドン下って竹野まででてしまった。また城崎に山道を登り返すのは辛すぎるので、海岸線を城崎に戻ることにした。

日本海を眺めながらのサイクリングで気分はいいのだが、高低差がけっこうある。海岸沿いの少し平坦なところに集落があるが、集落と集落の間は山なのである。だんだんと暗くなてくる。心細い。車がほとんど通らないのは、いつもは大歓迎だが、きょうは不安だ。平井ノ鼻あたりでは雨も降ってきた。

でもなんとかかんとか城崎まで帰ってきた。宿の人は、大雨で大変だったでしょう、という。城崎は大雨だったらしい。そういうば道がそうとうに濡れている。私が心細く思った雨は城崎の雨に比べればたいしたことなかったようだ。外湯につかり、ゆうゆうに7時の夕食に間に合った。夕方からの26キロの、かなりのアップダウンのサイクリングであった。

●4日目／円山川周辺をうろうろして豊岡へ

予定通り昼に集会が終る。当初の予定ではとことんこのあたりをサイクリングして、夕方の列車で神戸に帰るつもりだった。が、あいにく神戸で用事ができてしまった。それでもギリギリの3時半の豊岡発の特急までサイクリングすることにした。



(円山川の雄大な流れ)／(早朝に走った城崎温泉対岸のまっすぐな農道?)

まず円山川を日本海側に走る。きのう心細く走った道だ。津居山あたりで鮮魚店のおっちゃん推薦の食堂で昼食。たしかに美味しかった。



(この食堂、おすすめです。)／(気比海岸のサーファーと子ども)

昼食後、円山川の港大橋を渡り気比（きひ）海水浴場あたりへ行く。むくげの寺岡さんに聞いたら詳しいだろうが、このあたりは古代には日本の大陸への玄関口のひとつとして栄えていたのだろう！？！？

また道を戻って城崎から豊岡へと進むと単純なのだが、地図をチラッと見てから円山川からはずれて畠上方面から飯谷峠経由で城崎に戻ることにした。畠上まではほんとうに平坦かつ車のいない、レースのできそうな道路だった。



(なが～～い直線道路) ／ (堤防のうえの素敵な道)

が、飯谷峠はかなりの峠だった。これでも県道かという感じ。そういうえば地図上で畠上までの道は直線的でとうげの道はグニャグニヤとしている。地図の等高線が良くみえなかったが、グニャグニヤしている道は要注意である。（当たり前か！！？？）

城崎にはもどらずそのまま円山川右岸（東側）を豊岡に向かう。玄武洞も通った。通行止めのむこうの円山川の土手に自転車を発見して、私も登ってみた。日曜日で工事車両は通らない。かなり長い最高のサイクリング道路であった。



(円山川にはススキがよく似合う?)

最後、豊岡市街で迷ったが無事に豊岡駅に到着。自転車を輪行袋につめて予定通りと特急に乗り込んだ。最終日は約50キロ。

駅でピーナツとビールを買い、車中でひとり乾杯。充実したサイクリングを締めくくった。ピーナツが安くてたくさんだったのでよく食べたが、ピーナツはお腹の中で膨れるのか、夜まで気分が良くなかった。

## (8) 琵琶湖を、だいたい一周しました

2008-05-05 16:20:30 | 自転車生活

あこがれの琵琶湖にでかけた。5月3~4日（2008年）の1泊2日だ。天気予報では雨の心配が全くないという好条件だった。メンバーは、瀬戸島一周サイクリングに連れて行ってくれたグループ+新メンバー。



（自転車専用道路を快適に）／（さっそく、竹生島を荒らしているという鶴（う）の大群を発見）

朝9時30分にJR瀬戸駅集合。メンバーは12名。うち一名の飛田の30数年来の友人Dさんは、急用ですぐに神戸に引き返しながら、根性を発揮して夕食でまた合流。滋賀県マキノ在住のHさんは、途中琵琶湖大橋で合流した。

瀬戸から湖東を北上する（琵琶湖東海岸と書きかけてやめた。琵琶湖には海岸がない？！？！）。自転車専用道路がけっこう確保されている。快適、快適。近江八幡まできた。

昼食は近江八幡長命寺のレストラン「シャーレ水ヶ浜」。湖につきだした絶好のロケーション。こんなところに建物をつくってもいいのだろうか、という感じ。みなはカレーを注文したが、私はここ2、3日カレーなので焼飯を注文した。味は、ふつう。



（近江八幡長命寺・シャーレ水ヶ浜）／（シャーレの木）



(花) ／ (はち?)



(湖畔で小休止) ／ (長浜商店街の自転車散策)

ルンルン気分で北上して、長浜に着いた。時間に余裕があったので商店街に立ち寄った。「商店街に行こう」というメンバーがいて、「商店街がどないしたんや」と思っていたが、これが素晴らしい。にぎやかでバラエティにも富んでいる。もちろん、自転車は押して歩いた。以前、むくげの会の正月合宿で長浜に泊まり、高月町の雨森芳洲庵を訪ねたことがあるが、この商店街のことは知らなかった。（『むくげ通信』208号／2005年1月参照）



(長浜駅にもどってきました) ／ (トンネルを登ってきた子ども)

宿泊は国民宿舎「豊公荘」、これも先の合宿と同じだった。商店街散策後ひと風呂浴びて、6時から飲み始めた。私は、それなりにサイクリングで疲れていた。深夜まで飲むグループもあったが、私は9時にバタンキュー。そのかわり夜中に目が覚め、朝までもんもん。こんなことなら、深夜までがんばって飲んだらよかった・・・。

2日目、朝8時に出発した。自転車専用道を北上する（南半球では、南上、北下と言う????）。そして、メインイベントの「奥琵琶湖パークウェイ」だ。この小さな半島（葛籠尾崎半島?）にある山・鉢伏山が357Mなので。琵琶湖が標高100Mとして、標高差250Mぐらいだろうか。



（そこは絶景の琵琶湖ポイント）／（奥琵琶湖パークウェイの絶景）

奥琵琶湖パークウェイ、以前は有料道路だったそうだが今は無料。かけ崩れで工事中のため？自動車は西からの一方通行だ。我々自転車隊は東から入ったので、後ろからクラクションを鳴らす車はない。新緑が目にしみる。野草とりのおじさんおばさんがのんびりと？がんばっている。トンビもとんでいる。春霞の琵琶湖が絶景。ネス湖の怪獣まででてきそう。・・・・。最高だった。



（新緑が目にしみる）／（トンビがくるりと輪をかいた・・・・）

快適にくだってつづらお荘で昼食。私は鴨うどんと「小エビのてんぷら」を食べた。小エビが美味。



(小エビのてんぷら、ほんとは、小エビ揚げうどんが食べたかった) ／ (快調に走る)



(鮎(あゆ) ?も泳いでいる。見えるかな?) ／ (花も咲いている)



(そして?、越し方をふりかえる)

桜の名所・梅津大崎、これまたむくげ合宿で来たことのある知内浜を走る。そして、滋賀県生まれのつれあいからの宿題、「鮎（ふな）寿司」を「魚治」でゲット。大枚 6300 円を支払った。ちょうど 1 週間ほどまえの朝日新聞に紹介されていたのだ。琵琶湖大橋で合流したマキノの住人が魚治をご存知で、店探しの苦労もまったくくなってしまった。感謝。

当初の予定ではＪＲ高島駅までの予定だったが、けっこう走った 2 日間のサイクリング、145キロの今津で終了となった。初めての琵琶湖、本当によかったです。今回もみなさん、ありがとうございました。

## (9) 大津から、大原三千院、そして「未知との遭遇」

2009-04-23 23:24:45 | **自転車生活**

4月22日（2009年）、また私の希望で「木曜例会」を開催してもらった。午前9時30分、JR大津駅集合、メンバーは男ばかりの7名。平均年齢は、70歳。最年少は58歳の私、そして85歳のかたさん、80歳のナカさん、そして、60代と70代。リーダーは今回もA太郎さんだ。



（さあ、出発。大津駅前）／（花がきれいです）



（さざなみ街道はいい道です）／（琵琶湖大橋）

大津駅を出発して琵琶湖沿いに東進、近江大橋を渡って、自転車道の湖岸を快適に北上。そして琵琶湖大橋を渡って湖西の堅田に。11時半ごろで、時間が少し早いが「途中」（とちゅう、と、読む。ずっと、となか、だと思っていた）への道を登ると食べるところがなくなるのではという恐怖感から、堅田のIZUMIYAに入る。私は、カツ丼＆ミニうどんの定食650円。



(鮎寿司を食べようと思ったら、お菓子屋だった)／(カツどんです)



(花もたくさんありました)／(てんとう虫です)



(虫です。がんばっています)／(坂の途中で小休止)

途中への道は、京都のサイクリングマップには「レインボーワード」と紹介されている。でも、天気がよすぎるので?虹は見ることが出来なかった。それなりのどんどんと登る。そして、「未知との遭遇」

だ。



(峠はもうすぐ?。途中トンネルを通らずに旧道を行く)／(おじさんがいた)

私は、急坂をトップを切ってさっそうと?登っていた。途中の峠付近で大きな荷物をつけた自転車と人を見つけた。春休みにがんばっている青年がいる、いい感じだ、と近づいたらおじさんだった。ヘルメットの中をのぞくと、けっこう薄い。



(ビル(後列右から2人目)と記念写真)／(三千院への近道。川が石鹼の泡だらけなのがいただけない。)

彼はイギリスかた来た52歳のおじさん、名前がビル。長崎から稚内まで自転車旅行をするのだとう。長崎から12日目で、京都から鰐街道を北上して途中までできたという。いやいや、おどろいた。稚内まで行くのならわざわざ山登りで途中まで登ってこなくてもいいのに、と思うのは余計なお世話だ。

ビルは、途中から我々の登ってきた道を下り、琵琶湖大橋を渡り、大津にて、東京に?向うのである。いや、はや。

ビルは、毎日、自転車旅行のレポートをしているとのこと。いただいた名詞にそのアドレスが、あっ

た。毎日書くとのこと。重い荷物のなかにはコンピュータも入っているのだろう。我々のこともでているはすだ、と思ってみたら、はい、さっそく出ていました。

4月22日のビルの日記。 [http://www.crazyguyonabike.com/doc/page/?o=3Tzut&page\\_id=104035&v=7j](http://www.crazyguyonabike.com/doc/page/?o=3Tzut&page_id=104035&v=7j)

ビルは、自転車で世界旅行をしているのだ。アメリカ大陸横断、トルコから中央アジア諸国をまわって中国、などを、達成している。



(神社がありました) ／ (花もあります)

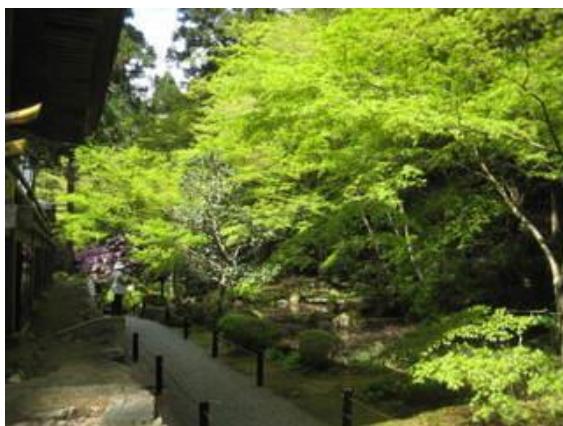
ビルと分かれて途中からの大爽快の京都への下りである。まず、大原三千院に行った。入館料を700円払ったので、ゆっくりと拝観した。いや、よかったです。新緑が目にしみる。紅葉の季節もいいだろう・・・。こんなに有名なのに、私は今回入ったのが初めてだ。



(庭がすてきです。) ／ (水がちょろちょろ)



(ここでも・・) ／ (・・・・・)



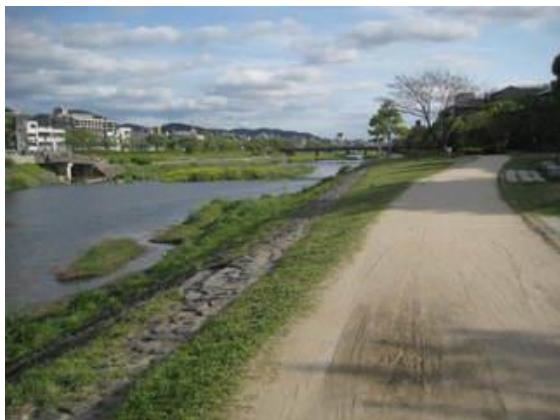
(こんどは、秋に来たい) ／ (自画像?)

三千院から京都に向かう。京都から途中を経由して敦賀までが「鯖街道」なのだ。ひょとしたら「途中」は、鯖街道の「途中」か??

京都市内に入ったところで隊はばらける。A太郎さんとカタさんはA太郎さんのご子息の出展している絵画展に、さらに阪急組、JR組、そして私はまだ明るく時間があったので「さらに散歩」組だ。



(うろうろしていると大文字山が見えた) ／ (知恩寺)

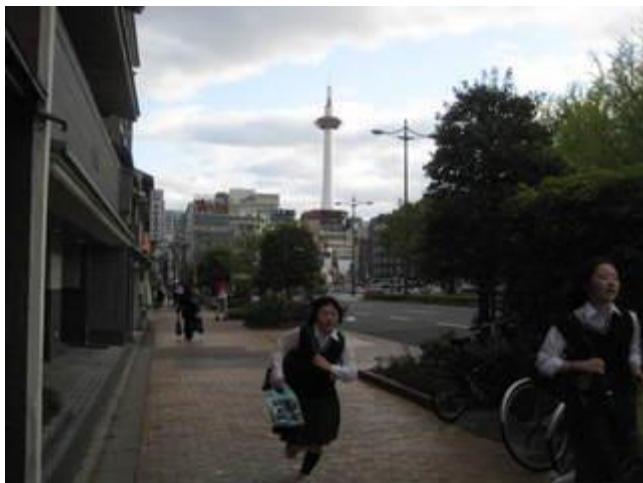


(鴨川をくだる) ／ (つかまえた)



(四条まできた。眠眠がまだあった。150円が誘惑だったがふりきった。) ／ (なかなか、ステキ)

いや、今回も充実、大満足のサイクリングだった。約65キロ。A太郎さんみなさん、そしてビルさん、ありがとうございました。



(京都タワーまできた。修学旅行生が走っていた。)

## (10) JRの最高地点（清里・野辺山）から太平洋へのサイクリング

2010-09-25 23:03:19 | 自転車生活



（JR最高地点、海拔1375メートル）／（名古屋から中央線特急。スキー用のスペースがあって、便利。新幹線のときは、3列席の一番最後の席の後が、自転車スペースにいい。）

ゆうさんは、先日、ステキなサイクリングをしてきた。

JRの最高峰小海線の清里・野辺山間にある 1375 メートル。

そこから太平洋までサイクリングしたかったのである。

コースは、富士川コース。

以前、高知の室戸岬サイクリングに参加した[ヒシダスポーツ](#)が9月のこの時期に富士山1周サイクリングを企画していて（人数が集まらずに中止になった）、こんなコースもあるのかと感動し、その一部を今回、ゆうさんも取り入れたのである。

今回のダウンヒル、ソニーの自転車ナビを使うのだ。

どんな、道を案内してくれるのか楽しみだ。



（ソバ畑がひろがります。）／（塩尻で乗り換えです。塩尻といえば条件反射で釜めし、です。高校時代、スキーで梅池にいったとき、帰りは、これでした。）



(なかなか、いいです) ／ (清里駅につきました。最高地点は、清里と野辺山の間にあります。)



(さすが、涼しいです) ／ (ウロウロしていたら、こんなものもありました。「宿泊の跡」なら、なんぼでも、あるのでは・・・。)

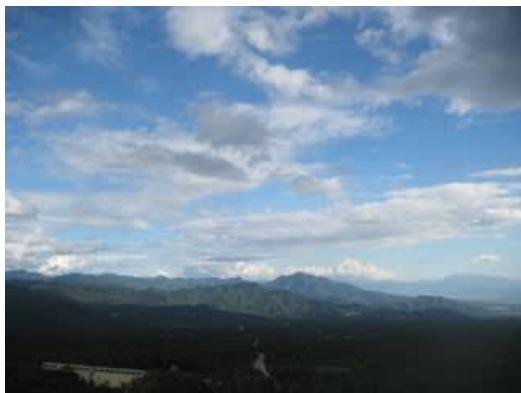
9月17日（金、2010年）、夕方、清里に、愛車と降り立った。輪行である。  
職場の神戸学生青年センターと友好関係にある清泉寮があるところだが、今回は、そこではない。センターが新たに加盟した、インターネットの「るるぶJTB」の調査?のためだ。そのJTBで探した宿に泊った。「俺れん家・オレンジ」というステキなところだった。

宿にチェックインしてから、まずは、最高峰にサイクリング。

登頂に成功した。



(ここにも登ってきました。徒歩です。) ／ (山頂です)



(いいながめ、です) ／ (山頂にありました。だいぶ、ダンピングしています)



(360度みえるはずです) ／ (富士山は・・・)



(「雲がなければ、あの方のソフトクリームの上あたりにみえる」と、ソフト屋さんの尾お話でした) ／ (サイクリングロードもありました)



(結構ながいです。私は、下りましたが、登ると結構たいへんでは・・・) / (清泉寮にも寄りました)



(コスモスが咲いていました) / (日本一高いが、売り物です)



(これも、です) / (ここに泊りました)



(雰囲気のある部屋です) ／ (朝ご飯です)

翌18日（土）、いよいよ下りである。  
まずは、ナビを基崎駅にセットした。  
あとは、ナビのとおりに進む。

が、結構大きな道だったので、浮気して、大門ダムへの道に入った。  
木の枝が結構落ちている。  
そして、その中の一つに乗り上げてしまった。

「ガタン」「ゴロン」  
ナビが落ちかかと思ったら、無事。  
さらに軽快にくだった。

大門ダムが見えてきたので、写真をとろうと、自転車バッグをみたら、ない。  
さっきのゴロンで落としたのである。



(ここで、カメラを落としました) ／ (ありました。が・・・。)



(このダムを映そうとして、カメラがないのに気がついたのです)

しぶしぶ、少々、登り返す。  
そして、さがす。見当たらない。  
崖の下もさがす。ない。

あきらめて、付近を携帯電話のカメラで写してから、行こうと思ったら、あった。  
喜んだ。  
が、壊れていた。  
SDカードは大丈夫なようだ（大丈夫でした。清里あたりはその写真です）



（道の駅で、時計を創って販売していました。屋久島の杉で作っていました。）／（ここの道の駅、です）



（快適に下ります。）／（豪雨の影響で稲が倒れ、稲刈りに苦労していました）



(小学校の運動会は、すごい規模でした。)

気をとりなおして、どんどんくだる。  
なにしろ1360メートルのアドバンテージはすごい。  
スキーのスラロームでもしているように、どんどん、下る。

ナビは、なかなかいい道を選んでくれる。  
大きな道に並行して、農道があるところは、そこにナビしてくれる。  
なにしろ、全く知らない道なので、それが、楽しい。

韮崎駅からは、甲府駅にセットした。  
もう、だいぶ下ったので、スラロームの雰囲気はなくなったが、それなりに快調に走った。



(韮崎駅につきました)／(駅前です。さすが、サッカーの町です)



(いい天気です)／(甲府駅に着きました)／(甲府は、この方でしょうか)

甲府駅に到前に着いた。

当初、甲府に泊ることも考えていたが、さらに進むことにする。

甲府駅の案内所では、身延線の身延駅前には1軒だけビジネスホテルがあるという。

そこまで行くことにした。



(甲府の歴史的建造物、警察でした)／(ナビの知らない、自転車道を少し走りました。)

ナビに、したがって、甲府平野を南下する。

その後、ナビは、どうも国道52号線を指示しているようだ。

地図をみると、身延線に忠実に沿って走るとアップダウンがありのうなので、まあいいか、とその指示に従うことにする。



(石屋がありました)／(かわいい・・・、おおきい・・・)

ダメだった。

国道52号線は、こわい・・・。

狭いし、トラックも多い。

でも、すでに身延線とはだいぶ離れてれしまっていたので、そのまま進んだ。

反省、です。

ナビに逆らって、身延線沿いに走った方がよかった。

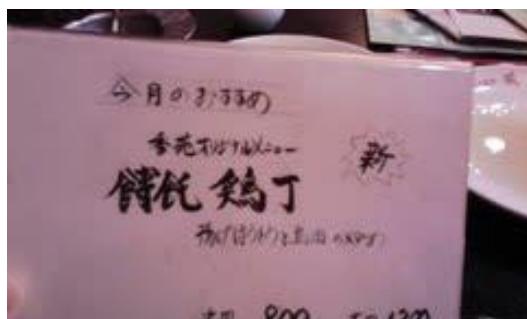
ただ、時間的にきつくなるので、清里から甲府によらずに、そのまま身延線に入った方がいいだろう。

ゆうさんは、このコースは卒業したので、これから行かれる方は、是非、身延線、忠実コースをお薦めする。

国道52号線で身延まで10キロと看板がでていたのに、10キロ走っても着かない。聞くと、町村合併で身延町は大きくなつたそうだ。結局、さらに12、3キロ走つて、やつと身延駅に着いた。



(身延駅です) / (身延名物です)



(こんな漢字を書くのですね) / (河原をうろうろしました)

身延町唯一のビジネスホテル「いち川」に泊つた。  
1回が料理屋で、2回が、ホテルだ。  
飛び込みで入ると、少々変な雰囲気だったが、OKだった。

シャワーを浴びてからウロウロと散歩とサイクリングをした。  
この路線をなぜ身延線を呼ぶのか、身延には、以前大きな鉱山でもあったか、などと考えていたが、どうも身延山が日蓮宗の総本山であるかららしい。

身延駅付近の中華料理屋で、ビールを飲んでの夕食。  
そして、早く寝た。

翌20日（日）。  
お腹がすいて目が覚めた。  
コンビニに行くと、7時からオープンとある。

仕方ないので、朝のサイクリングをして、7時に弁当を買って、河原で食べた。  
美味しかった。

そして、出発だ。

もう52号線は、こりごりで、身延線をくだる。

地図をみて、もともと、静岡に向かう52号線とは、このあたりでさよならして、身延線を下ることにしていたのである。



（富士川は急流で、ラフティングのメッカ・・）／（ボートで、この流れを下ります）

少々、アップダウンがあったが、ほんとに快適。

車は時々走るが、トラックはほとんどない。

サイクリングの姿はよく見た。

コースになっているようだ。

そして、新幹線・新富士駅についた。

160キロのサイクリングだった。

昼前だった。

ビールを買って新幹線にのりこみ、乾杯した。

今度は、野辺山から信濃川を下ろうかな・・・。

塩尻から太平洋がいいのでは・・・。

木曽川はどうだろう・・・。

高速道路の走っている川筋の旧道がいいかな・・・。

ビールがまわって、眠ってしまった。

## (1.1) 大津から、瀬田川、木津川、淀川、神崎川サイクリング

2011-07-03 14:11:05 | 自転車生活



(さあ、大津駅前に集まりました。) ／ (琵琶湖畔は、快適です)

久しぶりの木曜会サイクリング。ゆうさんの休みの木曜日に先輩たちが企画してくれるサイクリングだ。今回は、午前10時、大津駅集合だ。

リーダーはおおさん、メンバーは総勢8名、男ばかりだ。

最年少のゆうさんが61歳、平均年齢は、あらセブンティーカ。

大津川琵琶湖を回って瀬田川に。琵琶湖畔は、このあたりはサイクリングロードがある。天ヶ瀬ダムをとおって宇治市へ。そこで昼食。

午後は、宇治市内を散策したのち、おおさんの開発したコースをすすむと、木津川の流れ橋に出た。時代劇のロケによくつかわれるところだ。

そして、木津川のサイクリングロードを快適に下る。

そして、これまた上手に道をえらんで、淀川自転車道へ。

そして、また上手に神崎川のなにわ自転車道に入った。

すべて快適といいたいところだが、すご～～い猛暑。

リーダーのおおさん以外は、ばてばてだった。ゆうさんも・・・。

ほうほうのついで、阪急神崎川駅に着いた。

ゆうさんは、電車にのった。

最初は、六甲まで自走するのだと、言っていたが・・・。



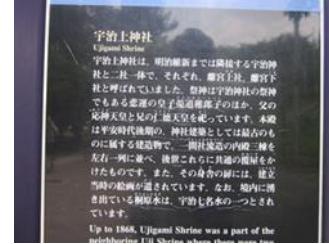
(瀬田の唐橋見学です) ／ (これです・・・) ／ (これもありました) ／ (京大ボート部がシングルの練習をしていました)



南郷洗堰(旧洗堰)		渕田川洗堰(新洗堰)	
門の数	32門	10門	
門の幅	12.8m	10.8m	
ゲート	8丁角、長さ14m、木材	上下2段ゲート、鋼材	
操作方法	人力	電動、遠隔自動制御	
操作時間	全開48時間、全閉24時間	全閉・全開30分	
完成した年	明治38年(1905)	昭和36年(1961)	
工費	25万2,000円	4億6,500万円	



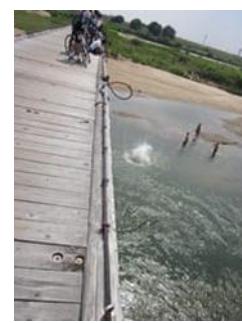
(おおさんが、これも説明してくれました。けっこう詳しいです) ／ (残存の一部です。) ／ (昔は、締めるのに48時間かかりました) (この新しいのは、早いです)



(天が瀬ダム。初めて行きました) (この建物も気に入りました) ／ (宇治上神社につきました) (りっぱな木です)



(本殿のまえの\*\*\*\*です) ／ (ゆうさんの自転車を三脚にして、記念写真です) ／ (平等院鳳凰堂です。河原から写しました。) (これもまた有名です)



(木津川、ながれ橋です。時代劇でよく登場します) (子どもが、飛び込み) ／ (・・ました。) (いい感じの街です)



(木陰で休んでいます) (・・・・) ／ (あじさいも暑い) ／ (終了です。とても六甲まで自走できません・・・。)

## (12) 「あーす農場」(兵庫県朝来郡)に行ってきました

2011-11-02 19:14:50 | 自転車生活



(和田山駅から円山川にでました) / (学生センターのカラー印刷機で印刷しました)

10月27日(2011年)、あーす農場にでかけた。

28~29日の城崎での解放研究集会の前に、初めて訪ねた。

ゆうさんは、あーす農場の大森昌也さんとは古くからの友人。娘さんのあいさんは、神戸学生青年センターの食料環境セミナーで講演もしてくれた。

その講演録『自給自足の山村暮らし』が、センター出版部から発行されており、よく売れている。

(A4 ブックレット 36 頁 320 円)

このあーす農場行き、最初のプランは、播但線の標高の高い生野駅までJRでいき(輪行)、そこから自転車でどんどん下って和田山。そしてがんばって登って和田山町朝日のあーす農場、の予定だった。

が、出発が遅くなったのでJRで和田山までいった。そこから登った。結構、急だった。

途中で郵便配達の人に訪ねたら、ここでの仕事を始めたばかりとのこと。

地図を調べてくれたが、要領をえない。ゆうさん分かっている現在地も、もうひとつ・・・。

ちょうどお巡りさんが通りかかって、教えてくれた。

「自転車ではむりでっせ・・」ということだった。

はい、余計なお世話です。

なんとか登って、4時半ごろにあーす農場に到着。

京都からのお客様がみえていた。先客万来のようだ。

昌也さんに農場を案内してもらう。

小型水力発電機、自家製ガス発生器、パン釜など、ステキだ。

限界集落に大森さんが住み着いて、生き返らせている。

農村が荒廃しているいまの時代、大森一家の存在自体に価値があると思った。

更に入植の新人もいるのである。

夕食はおいしいカレーをいただき、焼酎をよばれて、いい気持ちで寝た。

娘さんのチエさんが寒いからと寝袋をもってきててくれた。

まさか、と思ったが、夜中に寒くて目がさめた。

それから寝袋に入って、寝た。ありがとうございます。

朝の農場もいい。

コケコッコーで目が覚めた。ほんとに、いい。

昌也さんが、息子さん、ふたりのそれぞれの家に連れて行ってくれた。

子どもたちも元気だ。のびのびしている。

その後、朝食においしいパンをいただき、あーす農場を出発。

出石そば、城崎温泉をめざしたのであります。



（坂を登って分校まできました。この分校は、大森一家が当時4人の子どもと移住してきて廃校を免れました）／（ここから県道10号線を離れます）／（あと1キロです）／（すぐ下とありましたが、だいぶありました・・）



（みえてきました）／（農場に着きました）／（この看板もいいですね）／（かわいいのがありました）



（水力発電所です。電力の半分をまかなっているそうです。）／（冬も水をはっています。まったくの不耕起です。来年、前年の株の間に田植えをするのだそうです。肥料も不要とのこと。）／（4、50年前には桃源郷のようなきれいな棚田が広がっていたそうです。）（いいですね・・）



（大森昌也さんと自宅、パン工場、鶏小屋などです）（うっこけいも、います）／（このやぎさんは、柿の葉が大好きです）（図書館その1、児童書です）



（図書館その2、おもしろい本がたくさんあります。ここに泊めていただきました）／（パン釜です。マキで焼くので火かけんには、熟練がいると思います。）／（自家制作のバイオガスがついています。五徳は、ビール缶です）／（ほしています・・）



（なかなか、美しい、色っぽいです）（こんな猫もいました）／（まきは大切です）（五右衛門風呂のかまたきをしました。焚き木を燃やすのは楽しいです。いい湯でした）

＜あとがき＞

「ゆうさんの自転車生活」を作つてみました。「ゆうさんの自転車／オカリナ・ブログ」  
<http://blog.goo.ne.jp/hidayuichi/>

にアップしたものの中から厳選？したものです。当時は、自転車の初心者でしたが、けっこうがんばって走っています。いま、読み返してみても、けっこうガンガンと走っています。

でも、最近の私は、馬力がなくなって、もっぱらアシスト自転車で走っています。それはそれで楽しいです。むかしはスイスイと登れた？六甲山も、アシストのおかげでまた登れます。自宅（鶴甲団地）から表六甲ドライブウェイ、T字が辻、森林植物園、再度公園、そして自宅というのがお気にいりのコースです。もう、あきらめていたコースですが、アシスト自転車なら走れます。

師匠の林栄太郎さんは、82歳。私もまだまだ走りたいと思います。

2022年10月 飛田雄一

著者 飛田雄一（ひだ ゆういち）

1950年神戸市生まれ。神戸学生青年センター理事長、むくげの会会員など。

著書に『日帝下の朝鮮農民運動』、『現場を歩く 現場を綴る—日本・コリア・キリスト教—』、『心に刻み、石に刻む—在日コリアンと私—』、『旅行作家な気分—コリア・中国から中央アジアへの旅—』、『再論 朝鮮人強制連行』、『極私的エッセイ—コロナと向き合いながら』などがある。



---

ゆうさんの自転車生活

2007～2011

---

2022年10月26日 発行

発行 飛田雄一

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-3-18-205

e-mail hida@ksyc.jp

---